

特 249

282

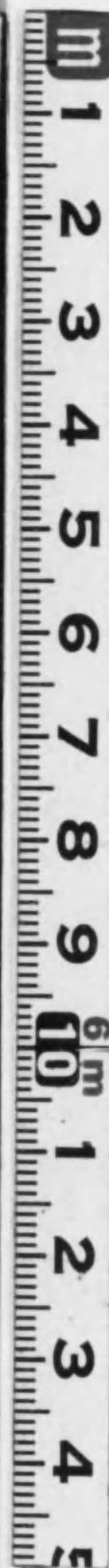
NOUVEAUX COURS DES RELIGIONS JAPONAISES

會教督基合組本日

幸真泉今



院書方東



始



特249
282

日本組合基督教會

今泉眞幸

目次

一	基督教の三大教派	一
二	組合教會の淵源	二
三	會衆教會の特色	三
四	宣教師の渡來	五
五	最初の教會設立	七
六	新島襄氏の歸朝	八
七	熊本バンド	八
八	初代教會の設立	二一
九	日本傳道會社の創立	二三
一〇	組合教會の諸學校	二四
一一	その後の教會設立	二六
一二	滿潮の時代	二八
一三	新聞雜誌	三三
一四	一致組合兩教會合併問題	三三
一五	兩偉人の永眠	三三
一六	保守的反動起る	三三

一七	新神學の勃興	三〇
一八	同志社事件	三六
一九	日本傳道會社の獨立	三八
二〇	南都の宣言書	三九
二一	保守的反動の緩和	三二
二二	三先輩の活動時期	三二
二三	諸教會の設立	三三
二四	日露戰爭時代の活氣	三三
二五	教會の獨立自給	三四
二六	朝鮮人傳道	三六
二七	組織變更	三七
二八	世界大戰後の宣言書	三七
二九	外國宣教師との協同	三九
三〇	組合教會の現況	四〇
三一	結 尾	四一

日本組合基督教會とは何か

今 泉 眞 幸

一 基督教の三大教派

基督教にも幾多の教派はあるが、その教義上の差違からいふと大同小異で、逆も佛教諸教派の間に見る程のものでない。禪宗と眞言宗、眞宗と日蓮宗との間に見る程の教義上の差違は、到底基督教の最左翼と最右翼との間にさへ見ることが出来ない。過般東方書院の當局から、組合教會の教義を書いて呉れるとの御注文であつたけれども、組合教會獨特の教義を書くことは出来ない、又た歐米に於ける組合教會と同主義の教會の分派した理由を書くのも面白くない。若し日本に於ける組合教會の歴史及その特色なら書きませう、又たその方が讀者にも興味があるでせう、と御答へしたら、それで善いから書いて呉れる、といふことで、執筆することにした。而かし一應は基督教の大體の派別に就いて述べやう。

今日世界の基督教を三大別すると、希臘教(正教會)羅馬教(天主公會)新教(プロテスタント教)となる。希臘教と羅馬教とは紀元後三四百年頃から分かれたが、教義上から見ても、儀式上から見ても、大した差違はない。何づれ兩派の教義に就ては本誌上に寄稿があるであらう、寧ろ此の分派は、羅馬帝國が東西に分裂して、一方はコンスタンチノブルを首都とし、他方はローマを首都としたから、又た希臘文化と羅馬文化との間に多少の差違があるからであつ

た。希臘教會は一定の教理信條で統一しやうとし、羅馬教會は一定の制度組織で統一しやうとする。其處に智的民族と政治的民族との差が現はれたのであらう。然るに新教は第十六世紀に至つて羅馬教に反抗して分れたのである。新教は良心の自由即ち信仰の自由を標榜して起つたので、何人でも自分の良心で善しと信する所を以て立つのであるから、大小幾十の宗派がある、又た幾らでも出来る可能性がある。けれども、羅馬教と新教との間には、之れ又大した教義上の差違があるのでない、北歐民族と南歐民族との民族的差違が背景をなして居るとも見られる。又英國の聖公會は新教の一派であるが、固と羅馬の本山から獨立したといふだけで、宗教としては羅馬教と餘り違はなかつた。今日でも聖公會の最極端は、新教諸派と提携するよりも、寧ろ羅馬教と握手せんと欲するのである。

我國では、東京神田駿河臺に大伽藍を有する俗にニコライと稱するが希臘教で、足利時代の末期に始めて傳來し、島原騒動と共に一旦絶滅した、俗に切支丹といふが羅馬教である。維新後再び各地に傳道されて居る。新教の各派は幕末から明治へかけて續々傳來した、重に英米宣教師の傳來したものである。今日我國で新教の四大教派と言はれるのは組合教會の外に、日本基督教會、日本メソヂスト教會、日本聖公會であつて、其他に大小十幾つの教派があるのである。

以上三大教派の外に、昔しネストリアン派と言つて、唐代に支那に傳播して景教と稱したのや（高野山に支那の景教碑の模造碑が立つて居る）、又た今日尙ほアルメニヤ邊に残つて居る基督教などは、別のものである。

二 組合教會の淵源

第十六世紀末に、英國は羅馬教と分離して新教國となつたけれども、その實禮拜儀式等に於て羅馬教の遺習を脱せないで、之に對して根本的改革を要求したものが有名なピウリタン（清教徒）である。彼等は國教會即ち聖公會に隨順しない故を以て、斷えず王室及政府から迫害を受けた。第十七世紀に入りて、政治的には當時の王黨に對し、宗教的には國教會に反抗して起つたので、爰に國王對國教會の衝突となり持久戦となり遂に内亂となつた。その中に國會側が二分してプレスビテリアン（長老派）とインデペンデント（獨立派）となつた。前者は溫和な多數黨で、後者は過激な少數黨であつたが、かの鐵血英雄漢クロムウエル、宗教的詩人ミルトンなどが、此の過激派に屬して居つたので、一時は英國を風靡したのである。王政復古の後、此の一派は特に英國政府の迫害壓制を蒙り、永らく困厄の境涯にありながら、その主義信仰を繼續して來たのが英國今日のコングリゲーションナリスト（會衆教會）である。之より先き、英國内亂以前に、ピウリタンの徹底派で政府の壓迫に堪へかねた連中は、一旦本國を出奔して和蘭に避難し、更に信仰自由の天地を開拓せんとて、一千六百二十年に「メーフラワー」號に乗つて米大陸に移住し、新英洲の創設者となり、その流風遺韻尙ほ米國の最健全分子を造りつゝあるは、かの有名なビルグリム、ファーザースの徒である。これが米國今日のコングリゲーションナリスト（會衆教會）の祖であつて、我が日本組合教會は實にその系統を之に引いて居るのである。

三 會衆教會の特色

此の會衆教會は、英米を通じて、神を畏れ、正義を尊び、而かも獨立自由を愛するが特色で、尙ほ今日では、諸派

中尤も教育を重んじ學術を奨励し聰明有識の人士に富む教派である。さて神學思想から言ふと、從來はルーテル派に對しては、寧ろカルヴァイン派の流を汲み（獨逸、驢馬、瑞典、那威等は多くルーテル派に屬す、米國にもルーテル派盛んである）又たアルミニユースの意志自由説に對しては、寧ろ神意豫定説を取るものである。メソヂスト教會は、アルミニユースの説を取つて、個人の救はるゝは本人の悔改に由ることに重を置き、カルヴァインは寧ろ個人の救はるゝと否とは神意の豫定に由ることを高調した。けれども斯んな神學問題は、今日會衆教會の特色を定むる問題とはならない。神學思想に於ては、各教會自由であり各個人自由であり、會衆教會の神學といふものはない。

元來新教では、諸派の分るゝ所以は重に二つの問題に由るので、一は教義即ち信條の問題で、他は教會政治の問題である。所が教義信條の問題に對しては、前述の通り、會衆教會に於ては個々の教會又は個々の會員全然自由である。故に保守思想に傾く教會も容るれば進歩思想に傾く教會も拒まない。又た左傾神學を抱く會員もあれば右傾神學を奉ずる會員もある。尤も事實上個人としても教會としても進歩思想自由思想のものが多し。そして教會政治の問題に對しては、諸派中極端に、各教會の自治獨立と、各會員の平等とを高調するのである。たとへば、聖公會では監督に非常に權力を有たせたり、長老教會では大會即ち代議會に優越權を與へるに反して、會衆教會では個々の教會に重を置く。總會は諸教會の聯盟會議たるに過ぎない。又た一教會に於ては、長老教會では長老なる役に非常な權力を有たせるが、會衆教會では、各會員平等に發言投票の權を有し、役員なるものは會衆に代つて世話を焼くだけに過ぎない。或人は監督政治を國王專制政體に、長老政治を代議政體に、會衆政治を民衆政體に譬へたが、多少當を得て居ると見てもよい。教派分裂の二大眼目たる信條問題と政治問題に於て此の通りであるから、局外者の或は想像する如

く、眞言宗の教義若くは淨土宗の教義を一ト通り説くように、組合教會の教義を説くことの出来ないことが分かる。

今日會衆教會の所在地は、英國と米國と濠洲とである。歐洲大陸にない、蘇格蘭や愛蘭にもない。カナダでは、二三年前に會衆教會と長老教會とメソヂスト教會と三派合同が完成した。英國でも、優秀な宗教家は居るけれども、會員數は比較的多くあるまい。米國でも、建國當初は優勢な教派であつたが、昨今は會員數に於ては第八九位に落ちて居る。但し個人として教會としては優秀なものが多し。現大統領クローリツチ氏の如きも此の教派に屬して居る。英國の會衆教會では、外國に傳道して居るかどうか、余は知らぬが、米國の會衆教會では、土耳其、印度、日本、支那、南亞非加等に傳道して居る。經費不足の爲め、今後は専ら土耳其と印度と支那とに勢力を集中せようとして居る。

以上は會衆教會全體に亘りて、歴史や特色や現狀を述べたが、之から日本組合教會のことを紹介する。

四 宣教師の渡來

幕末から明治維新までにかけて、五個の教派を代表する宣教師十數名が前後して日本に渡來し、長崎や函館や神奈川やで傳道を開始したのである。けれども、我が組合教會に關係あるアメリカン、ポールド（米國傳道會社）がその宣教師を始めて我邦に派遣したのは、明治二年である。このアメリカン、ポールドは固と超教派的の會社でめつたけれども、後にはコングレガーションナリスト派所屬の姿となつて仕舞つた。政府系などゝは何等關係のない全然有志信徒の組織する私設團體であることは、言ふ迄もない。そしてその本部はボストン市にある。さて此の傳道會社と我邦との間に斯ういふ逸話がある。

一八二七年の事である。米國マサチューセツツ州ブルックラインに住せるボストン市の一商人ウイリアム、ロースといふものがあつた。傳道事業を重んじ、同志の信徒數名と相談し、幾分なりとも傳道事業を援助せんとの議を纏め、毎月一回づゝ該商人の宅に會合することゝなつた。第一回の會合の時、何れの國に此の寄附金を捧ぐべきかの問題が起つた。此の時恰も室内の机の上に一個の日本製の籠があつた。蓋し和蘭人の手を経て長崎から渡來したものであらう。主人は直に之を手にながら、此の金を此の籠の由來した國の傳道に捧げようと言ひ、一同之に賛同し、後益々その金額を増加して遂に六百弗に上らしめ、之を日本傳道の爲としてアメリカン、ポールドに寄附した。此の頃ポールドは未だ日本傳道を始めなかつたのである。尙ほ此の商人はポールド派遣第一の宣教師たるグリーン氏の父の朋友であつたことは、一の奇縁である。

米國傳道會社が最初の宣教師デー、シー、グリーン氏夫妻を派遣する事に定めたのは一八六九年(明治二年)十月であつて、彼が横濱に着いたのは十一月三十日であつた。そして同氏の記する所に由ると、此の日本傳道の開始は、當時アーラスト大學に留學中であつた新島襄氏の從憑に基づくものゝようである。グリーン氏は、東京横濱には他教派の宣教師十數名が既に駐在するを見て、目を轉じて一人の宣教師も居住しない神戸の地を選んで根據地とした。之れが組合教會が關西に發祥した所以である。引續いて明治六七年頃迄に、オー、エチ、ギユリキ氏夫妻、チエー、デー、デビス氏夫妻、ジェー、シー、ペレー氏夫妻、エム、エル、ゴルドン氏夫妻、ダツドレー、タルカット兩女史、ジェー、エル、アツキンソン氏夫妻その他が渡來した。是等の宣教師は皆な米國の大學を卒業せる青年であつて、デビス氏ゴルドン氏の如きは、南北戦争の際、學生の身を以て義勇兵となつて北軍に投じた志士であつた。

最初彼等が傳道に着手した頃は、基督教が尙ほ邪教として表向には禁止されて居り、一般民衆も蛇蝎の如く恐れ嫌つて居つた時であるから、傳道に非常に困難した。但だ自分等が日本語を學ぶことゝ、有志の青年に英語を教えて近付きとなることゝ、少數の求道者に内密に新教を紹介することの外、何事もなし得なかつた。グリーン氏の語學教師市川榮之助なるものが、稍々求道の念を起し日本譯の馬可傳を借讀したことが、其筋に知れて夫妻共に獄に下され、遂に獄中で病死した。彼は未だ洗禮を受けなかつたけれども、組合教會否な新教諸派第一の殉教者であつた。

五 最初の教會設立

如上宣教師の努力が果を結んで、明治七年四月十九日に神戸で男女十一名が受洗して、爰に攝津第一基督公會なるものを設立した。之が今日の神戸組合教會である。次で同年五月二十四日に大阪で、七名の男子が梅本町公會を設立した。之が今日の大阪組合教會である。兩教會とも今日も尙ほ組合教會の二大雄鎮である。宣教師が夏季に有馬に避暑するのと、三田の舊藩主九鬼氏が外國の文物を憧憬するのとが縁となり、明治八年七月二十八日に三田で十六名の男女が攝津第三基督公會を設立した。又た明治六年頃からタルカット、ダツドレー兩女史が、神戸で舊三田藩士の子女を集めて教へて居つたが種子で、八年十月には新校舍を建築して一女學校を設立した。之が今日の神戸女學院である。當時の信徒中、松山高吉氏は、越前糸魚川の人で、固と神道家で國學を修めたのであるが、斯道に入り、後ち神戸教會その他の牧師ともなり、聖書の日本語譯に功勞ある第一人である。杉山重義氏は、後ら自由民權の運動に参加した志士の一人で、晩年には早稲田の教育界に献身して居る人である。

六 新島襄氏の歸朝

新島襄氏は上州安中の藩士であるが、元治元年國禁を犯して米國に渡航し、ボストン市の紳商ヘーデー氏の恩顧の下に、フィリップ中學、アーマスト大學、アンドリュー神學校に學び、中學時代基督教を信じ、神學校時代に岩倉全權大使の一行に隨伴して歐洲諸國を巡遊し、特に教育制度を視察した。日本に基督教主義の大學を設立するの雄志を抱き、有志に訴へて五千弗程の寄附金を獲、明治七年十二月に歸朝した。そして山本覺馬氏と結社して同志社を起し、翌八年十一月に京都に同志社英學校を設立した。氏の人物に就て爰に喋々するを要せぬが、受洗した吉田松陰なりとの定評ある如く、傳道と教育とに一生を精献した愛國的熱血漢であつた。山本氏は會津藩の遺臣で、盲目の身を以て京都府顧問、後に京都府々會議長を勤めた人士である。教師としては、共にアメリカン、ポールドの宣教師であるが、南北戦争の勇將なるデビス神學博士、博學溫厚の聖者なるラルネデ哲學博士が、新島氏と協力した。同志社は最初から新島氏が創設經營したもので、アメリカン、ポールドは金銭と人物とを以て援助した迄で、他のミツシヨン、スクールの如く、外國傳道會社が創設し經營するものとは趣を異にするのである。同志社は基督教主義の學校であるけれども、ミツシヨン、スクールではない。之が爲には、新島氏始め幾多の先輩が苦戰難關したのである。

七 熊本バンド

明治四年に熊本の舊藩主細川侯が、熊本洋學校を設立して、その教務一切を米國豫備軍人チエーンズ氏に托した。

氏も南北戦争に従軍した人で、中々の英雄肌の人物で、英語を以て一切の普通學を學生に教授した。學生も亦た選抜された優秀な少年であつた。同氏は始め二三年間基督教を口にせなかつたが、學生等が非常な畏敬と信頼とを以て師事するようになつてから、自宅に於て聖書の講義を開始した。學生等も始めは怪訝と輕侮とを以て聽いて居つたが、後には同氏の威風と熱淚とに感化されて、猛火原野を焚くの勢を以て信仰するに至つた。明治九年一月三十日の日曜を期して熊本城の西南花岡山に上り、山巔に環坐して祈禱を捧げ、左の誓約書に記名調印した。

奉教趣意書

余輩嘗て西教を學び、頗る悟る所あり。爾後之を讀みて益感發して欣戴措かず、遂に此教を皇國に布き、大に人民の矇昧を開かんと欲す。然りと雖も、西教の妙旨を知らずして頑固舊說に浸潤するの徒未だ尠ならず。豈慨嘆に堪ゆべけんや。此時に當り、苟も報國の志を抱くものは、宜しく感奮興起し生命を塵芥に比し、以て西教の公明正大なることを鮮明すべし。是れ吾曹の最も力を竭すべき所なり。故に同志を花岡山に會し、同心協力して以て此道に従事せん事を欲す。

- 一、此道に入る者は、互に兄弟の好を結び、百事相戒め相規し、惡を去り善に移り、以て實行を奏すべし。
- 一、一度此道に入りて實行し能はざる者は、是れ上帝を欺くなり、是れ心を欺くなり、斯くの如き者は必ず上帝の譴罰を蒙る。
- 一、方今皇國の人民多く西教を拒む故に、我徒一人此道に背く時は世の謗を招くのみならず、遂に我徒の志願をして遂げざらしむるに至る。勤めざるべけんや、飲まざるべけんや。

その中に、宮川經輝、海老名弾正、金森通倫、横井時雄、浮田和民、下村孝太郎、徳富猪一郎、藏原惟廓、市原盛宏等の諸氏がある。

此の一舉は、校内に一大沸騰を來たしたのみか、舊藩中に一大恐慌を起した。父兄は其子弟が邪教を信ぜしを怒り、學校關係者は有馬の青年が西教の僧侶となつたと驚き、干渉、迫害、幽閉、放逐、種々の方法を盡したること六箇月。而かも彼等は能くその信仰を確守した。その間に小崎弘道、吉田作彌等の諸氏が後から加つた。四月頃に彼等はチェーンズ氏から受洗した。けれども同氏は宣教師でないから受洗の資格がない、全く臨機の處置を取つたのである。此の騒動の爲め、學校は自然解散することとなり、學生等はチェーンズ氏の勸誘に従つて、設立後約一年半許りの京都同志社へ、相前後して轉校したものが三十名程あつた。その中普通學を一通り卒へたものは神學を修めることとなり、年少のものは普通學を修めることにした。此の新入者を得て、同志社は頓に引き立つた。是迄浮浪書生の集合で、校風も學風も整はなかつた同志社が、熊本洋學校の校風學風を以て改鑄さるゝことになり、面目を全く一變することになつた。

そこで、同志社が創立者新島氏と、宣教師デビス氏ラルネデ氏等と、熊本バンドとの三角同盟である如く、他日此の三勢力は、組合教會を形成するに最も有力な三要素となるのである。

八 初代教會の設立

前にも言つた如く、明治七年に神戸教會と大阪教會とが設立せられ、翌八年には同じく攝津の三田に一教會が設立せられた。これは舊藩主九鬼隆義氏及び舊藩士の二三有力者が、舊慣を打破して歐風を輸入するに銳意であつたのと神戸大阪に在住の宣教師達が夏季に有馬に避暑したのが機縁となつて、三田人士の間に幾多の信徒が出来たからである。又た彼等の子女の多くが同志社や特に神戸の女學校で教育を受けたので、その後ち組合教會の牧師達や學校教師達の細君に三田人が多かつた。翌九年には兵庫教會が設立せられ、又た同志社へ熊本の青年達が入つて來て、元氣頓に揚つたので、京都に同時に三個の教會が設立された。そして是等の諸教會は、皆な宣教師を推してその假牧師とした。その『假』といふのに意味がある。我が組合教會では、最初から教會の主任者責任者は日本人が當るべきものと、宣教師も信徒もさう思つて居たが、如何にせん、創業の際とて、牧師となるべき人物もなく、又た教會行政の智識もない爲め、已むを得ず假に宣教師に依囑して牧師の職に當らしめたのである。けれども、その實彼等の下には相當の補助者が居つたのである。

明治十年に大阪に浪華教會が設立せられ、その牧師となつたのが澤山保羅氏である。氏は長州藩士で、少年にして軍務に従事し、後ち神戸に出てグリーン宣教師に就いて英語を學び、同師の斡旋で米國に遊學し、彼地で洗禮を受け、勉學數年、傳道の大志を抱いて歸朝した。同郷人の先輩友人の推舉を退げ、外國傳道會社の俸給を受けず、少數信徒の些細な喜捨に由つて生活して、教會傳道に献身したのである。新島襄氏は米國で既に按手禮を受け（此の禮式は

牧師の職に就くものゝ受くる禮式である。之に加ふるに宣教師の資格を獲て歸朝したのである。故に同志社の校長であると同時に、宣教師と同等の俸給を傳道會社から受け、且つ京都第二教會の假牧師であつた。日本人であつて宣教師であつたものは、我が組合教會では、後にも先にも彼れ一人である。澤山保羅氏は、浪華教會の牧師に就任する時始めて按手禮を受け、組合教會按手禮受領者の第一番目である。彼も新島氏も共に、明治政府の要路に立ち、青雲を攀ち上り得る機會を斷然退ぞけ、教育や傳道に献身したのであるが、彼は新島氏程に世間一般に知られなかつたけれども、その篤信なことその崇高なことに於て、全く聖者の域にあつた。彼は又た熱心な教會自給論者で、教會は如何に小さくとも決して他から金錢の補助を仰いではならぬと主張し、彼自身も最初の程は毎月六圓の俸給を受けたのであつた。同じ十年に神戸に新に多聞教會が設立された。又た村上俊吉氏が推されて兵庫教會の正牧師となり、按手禮を受けたが、之が按手禮受領者の第二番目である。

此の當時は、教會と言はずに公會と言つた。それが何時の間にか教會と變つた。それから當時は、信徒は固より教派の區別などを知らない。のみならず宣教師さへも、基督教を宣傳するが目的で、自己所屬の教派を弘布する積は少しもなかつた。そこで何々基督公會と稱した。所が長老派宣教師の傳道で出來た東京横濱の諸教會も、固と無教派を標榜して設立されたさうである。そこで新島襄氏歸朝の噂を聞くや、横濱の某教會は牧師として彼を招聘したが、彼は受けなかつた。又た明治七八年の交、東京横濱兩公會と神戸大阪兩公會と合同の議が起り、各代表者を出して規約の草案までも作成したが、教會自治の問題に就き新島氏等の反對があつた爲め、合同の議は中止になつた。故に一部の人士は、教派合同妨害の罪を以て新島氏を非難するのであるが、彼は信條や神學思想の上で長老派と意見を異にするのでなく、教會政治の上で合同を望まない。彼は極端な自由主義者で、個々教會の自治と個々會員の自由を非常に重んじて、長老派の代議政治に飽き足らなかつたのである。

明治八年の末、村上俊吉氏アツキンソン氏等相謀つて、『七一雜報』てふ週刊新聞を出した。説教もあれば教會通信もあるが、又た直接基督教に關係のない歐米文化の紹介もある、片々たる通俗新聞であつたが、全國唯一の基督教新聞である許りでなく、世間一般の人々も興味を以て迎へ、大に傳道の助となつた。

明治十年の頃、神戸在留のアツキンソン氏は同志社の青年學生を同伴して、或は中國に或は四國に傳道旅行を試みた。之れが爲め岡山、玉島、笠岡、福山、尾ノ道、今治、松山等に信者求道者が起つた。又た同年の夏、同志社の學生が休暇を利用して各地に傳道した。その地方は上州、尾張、伊勢、江州、越前、越後、丹波、大和、備前、備中、備後等に及んだ。就中効果のあつたのは上州安中、備前岡山、伊豫今治の三ヶ所であつた。

九 日本傳道會社の創立

前項で明治十年迄の所を一應すまし、更にその後の進歩を見ることにする。明治十一年一月早々、神戸、大阪、三田、兵庫、京都第一、第二、第三、浪華、多聞の九教會の代員十八名が、大阪土佐堀梅花女學校に集合し、二日間互り、各教會の状況を報じ、各自の信仰を語り、且つ傳道會社設立の件を議した。衆議一決、規則數條を議定し、且委員三名を擧げてその事務を執行さすことにした。之れが日本傳道會社の起源であつた。そして三名の委員は悉く日本人であつた。之に由つても明かな如く、組合教會に於ては、本山とか幹部とかどあつて、そして各處に末寺とか支

部があるのでなく、個々の教會は各自獨立自治であつて、唯だ同信條同主義同趣味の諸教會が申合せて聯盟を造つて居るだけである。そこから『組合教會』といふ名稱が出来たのである（此の名稱は尙ほ十年後に出来たけれども）そして聯合して傳道事業をやる。それが此の傳道會社であつた。又た此の聯盟の會議には、かういふ創業時代に於てさへ、宣教師達は番外席には着席したが、正議員にはならなかつた。又た此の傳道會社へ米國傳道會社からの補助金があり、従つて番外としての宣教師達の發言權は有力なものであつたらうが、而かし當面の責任者當事者は全く日本人であつた。此の點は、當時に於て尙ほ其後に於て、組合教會が他の教派と趣を異にした所である。宣教師達は先進者たるの故を以て非常に尊敬されては居たが、大義名分に於ては、日本人が全くの主人公で、宣教師達はドコ迄も客分であり後援者であつた。これは宣教師達の寛容謙遜にも由るが、人物識見信仰に於て彼等に優るも決して劣らない、新島澤山兩氏のやうな先輩が居つたからでもあるが、又た會衆主義（コングリーゲーションナリズム）の教會是が然らしめたのである。而かし同じ傳道會社から傳道した、支那の會衆教會はどうか、土耳其の會衆教會はどうか。日本の組合教會のやうに、自國人が主人公たる位地には立ち難いやうに見受けられる。

十 組合教會の諸學校

序に學校の事に就いて一言したい。當初の神戸英和女學校、即ち現今の神戸女學院は、米國傳道會社が創設し且つ經營し來つたものである。その點に於て日本各地にある所謂ミツション、スクール（宣教師學校）と異なる所がない而かし昨今に於て、理事會を組織して、理事の中へは他教派の人士さへ入れて、成るべく教派の色彩を超越させやう

とし、且つ成るべく早く基本金を造つて日本人の手に一任し、そして傳道會社から離さうと力めて居る。けれども、京都の同志社は、その立校の根本が全く之と異なつて居る。新島氏が最初基督教主義大學設立の雄志を起し、米國有志者の寄附金數千弗を抱いて歸朝し、創立の計畫、經營の困難、一身を以て之に當り、始め山本覺馬氏と結社して同志社と稱したが、之が學校經營の主體であつて、其後社員の數は段々に増加したけれど、悉く日本人であつた。米國傳道會社は無償で外國教師を供給し、且つ經費を年々補助したのであつた。而かも創立當初數年間に於ては、同志社經營に反對の宣教師連頗る有力で、新島氏及び彼に同情を寄せた宣教師等は非常に苦戰難闘した。學校の内部では、新島氏の謙遜讓歩的なのと、萬事教授會の衆議に従ふといふ民衆主義的なのと、教授の大多數が外國教師なので、兎角外國教師の意見が通つて、世間の所謂ミツション、スクールと變らなかつたことは、事實である。而かし創立當時外國教師が主權を振り廻はした點に於ては、官立の東京大學否その前身たる開成學校に於ても、又た札幌農學校に於ても、同然であつた。此の外國教師の遣り口で、不都合と思はれ不適當と見られることに反抗して、それを矯正したのは、初め上級生であり後に教師となつた熊本組の青年であつた。新島氏も外國教師と熊本組との間に板挟みとなつて、随分苦心したことであらうが、其處に又た同志社が世間のミツション、スクールと趣を異にする所以の原因が存する。今や誰も同志社を目して宣教師學校といふものはない。

所が此の同志社とも趣を異にしたのが、澤山保羅氏が大阪に創立した梅花女學校である。彼の主義は、外國教師だけは傳道會社から無償で供給して貰ふけれども、金錢の補助は一切外國から受けぬといふことであつた。故に此の學校に於ては、宣教師的色彩が最も稀薄であつた。彼の高弟成瀬仁藏氏が、後年新潟女學校を創立した時にも、同じ主

義をやつた。尙ほ彼が日本女子大學校を創立した時にも、同じ主義をやつたのみならず、基督教主義といふ看板さへも撤廢した。兎に角、神戸女學院と同志社と梅花女學校とを比較すると、外人關係に於ける三種の違つた態度が看取さるゝ。そして是等の學校から出身した人士が重に盡瘁した組合教會が、外人關係に於て他の教派と趣を異にしたのは、自然の結果である。

十一 その後の教會設立

明治十一年になつて、新島襄氏の故郷上州安中に教會が設立され、播州明石にも教會が設立された。此の夏新島襄氏は小崎弘道氏を伴つて、日向に傳道旅行を試み、小崎氏尙ほ居残つて、高鍋を根據としながら佐土原、本所、高岡宮崎、竹岡、都之城等を巡回した。明治十二年に、大阪に天滿教會、江州に彦根教會が設立された。此の年六月に同志社は神學科第一回卒業生十數名を出したが、山崎爲徳、市原盛宏、森田久萬人の三氏は、學校に留つて教授となり宮川經輝、加藤勇次郎の二氏は、女學校の教師となつたけれども、不破唯次郎氏は福岡に、海老名彈正氏は安中教會に、横井時雄氏は伊豫今治に、浮田和民氏は天滿教會に、小崎弘道氏は東京に、それ〴〵傳道開拓に赴いた。そして同年中に今治教會と東京第一教會（現今の靈南坂教會）とが設立された。明治十三年には、岡山教會が設立された。之に由つて見ると、組合教會發祥の地である神戸、大阪、京都、及び三市の隣接地である三田、明石、彦根を除けば安中を中心とした上州、今治を中心とした伊豫、岡山を中心とした三備とが、組合教會の最も早く根據を据えた地方であつた。又た是等の地方で出來た信徒の子女やその關係者が、今後同志社男女の學校や神戸英和女學校に入學した

ので、學校も盛んになり、教會も亦た盛んになつた。

爰に一言すべきは神學科第一回卒業生が、或は傳道に或は教育に各地方へ散じた時に、彼等は一文も米國傳道會社から俸給や手當を受けたものはない。招聘する教會又は有志團體が提供するものを以て甘んじて居つた。故に彼等の俸給は、多くて十數圓、少きは六七圓。或るものはそれが爲に親譲りの公債證書を賣り拂ひ、或るものは翻譯などしてその要求に充てた。けれども、彼等は意氣軒昂、今にも天下を取るやうな意氣込で傳道した。又た彼等程の高等教育を受けたものは、地方は固より都會にも少なかつた。

又たどういふ人達が信者となり求道者となつたかといふと、今日から見れば、必しも純な宗教心の發動から發心し入道した人達許りではなかつた。當時日本全國を通じて、上下學つて歐米の文明を吸収するに熱中した時であるから一面基督教に對して先祖傳來の毛嫌を感じながら、他面文明國の宗教として之を歓迎した傾向もあつた。漢方醫術を棄て、洋方醫術を學ぼうとする地方の醫者、從來の風俗習慣に反抗して自由民權を主唱する新人、好奇心から又は先覺者となりたい野心から西洋の事物に接觸しやうとする人達などが、宣教師や同志社の學生を歓迎して、その説話を聽き且つそれに傾倒したのであつた。當時は演説といふが新現の流行物であつたが、明治十四年十月京都雙林寺文阿彌席で、始めて同志社の教師生徒の公開演説會を開いた所が未曾有の盛況で京都の人心に多大の感化を及ぼした。その演説を見ると「天が動くか地が動くか」綱島佳吉、「工藝學術は風俗を矯正すべきや將た之を破壊すべきや」藏原惟廓、「世界の七變化」森田久萬人、「發明家の親玉コロンブス」市原盛宏、「紙幣論」ラルネデ、「人間の四務」山本覺馬などであつた。それから京都に於て大阪に於て、盛に公開演説會を開いて新教の宣傳をやり、自由民權論者の政談演説

會と相對立した。又た醫師を兼ねた宣教師が渡來して、病院を建て、盛に民衆を利益した。

明治十四年六月には、同志社から第二回の普通科卒業生十數名を出した。十五年には、大阪に島之内教會、備中に高梁教會が設立された。

十二 満潮の時代

明治十六年頃から二十二年頃までは、教勢が隆々として發展した時期であつた。十六年の初に首都東京で新教諸派を通じて信仰の復興を來たし、四月には大阪で全國諸派の宣教師大會が開かれ、五月には東京で第三回日本全國基督教信徒大親睦會が催され、信徒等は信仰に燃え感激に溢れ沖天の意氣を示した。そしてそれが又た地方に波及して行つた。京都同志社では十七年三月に大信仰復興が起り、學校の上下を震動させ、そしてそれが關西の組合教會に大影響を及ぼした。此年新島襄氏は、學校擴張の目的を抱いて再度の歐米漫遊の途に就いた。十八年の暮に明治政府の大改革が行はれ、始めて内閣制度が出来、伊藤博文氏が最初の總理大臣となつたが、此の内閣時代が即ち世に所謂歐化主義の最も盛んな時代で、英語、東髪、洋服などが一時に流行し出した。従つて宗教も基督教でなくてはならぬといふ有様となつた。信者は天下は我が物といふ氣分になり、東京の大教會などは、門前に車馬市を成す好況を呈した。爲めに都會でも地方でも、教會へ入會するものが多くなり、信徒の數が頗る増加した。此の趨勢は二十年を絶頂として、その餘波は二十二年に及んだ。

此の七年間に設立された組合教會は、上州甘樂、備中笠岡、上州高崎、丹波、備前天城、京都四條、上州原市、福岡、伊豫小松、江州長濱、熊本、泉州岸和田、播州姫路、陸中水澤、肥後八代、福井、作州落合、十勝浦河、前橋、新潟、東京番町、宮城、陸中、金ヶ崎、土佐、伊豫宇和島、泉州堺、日向高鍋、伊豫波止濱、上州綠野、上州沼田等の諸教會であつた。傳道された土地が更に廣く更に多かつたことは申す迄もない。傳道者の派遣を懸望する地方は多いけれども、それに應ずる人物の數の乏しきを歎ずるの外はなかつた。又た新に會堂を建築した教會も多くあつた、他の諸教派に於ては、一地方に傳道を開始するや、それが相當の土地であれば、幹部から先づ會堂を建築して傳道の便に供するのであるが、組合教會では、先づ傳道して信者が出来、そして教會が設立されても、教會の財力が充實して會堂を建築し得る迄は、借家か假會堂で間に合はすの外はない。傳道の都合からいふと頗る不利であるが、教會自治の主義からいふと仕方がないのである。

是迄組合諸教會は共同して、日本傳道會社を經營して居つたのであるが、明治十九年四月京都で第九回傳道會社年會を開いた折、始めて諸教會の聯盟を組織し、且つ他の諸教派と區別する爲に始めて「組合教會」と命名した。而かし聯盟を組合教會といふのでない、個々の教會を組合教會といふのである。言を變へて言へば、教派が單位でなくして、個々の教會が單位である。此の際又た牧師傳道師の大更迭を行ひ、頗る傳道地を増加してそれ／＼傳道師を派遣した。これは組合教會に於て一新時期を劃した時で、聯盟に加入した教會數が三十一個、牧師傳道師の數が四十名、信徒の總數が三千四百六十五人であつた。

組合教會關係の學校に就て言へば、同志社は明治十八年頃に一新時期を劃して、校舎の建築、内部の設備、生徒の員數など頗る面目を改めて、押しも押されぬ一大學府となつて天下を壓するに至つた。それと同時にその分校と

もいふべきものが、仙臺に東華學校、熊本に英學校、新潟に北越學館、大阪に泰西學館などが出來て、盛に地方の青年を薰陶した。又た新潟女學校、鳥取英和女學校、熊本女學校、松山女學校、前橋共愛女學校などが設立され、男子の學校と同様、それ〴〵地方の組合教會の氣勢を揚げるに大に力があつた。要するに、教會といひ學校といひ、よし根底は深くなくとも、表面に於ては氣勢の大に揚がつた時代であつた。而かし又た日本全體の社會が、尙ほ幼稚でそして淺薄を免れない時代であつた。

十三 新聞雜誌

當時の定時刊行物に就て一言すれば、『基督教新聞』といふ週刊新聞と『六合雜誌』といふ月刊雜誌があつた。固とは基督教諸派有志の手に成り、諸派共通のものであつたが、後には組合教會の先輩が重に之を經營し之に執筆するので、兩者共組合教會の機關のやうな姿となつた。而かも諸派の信徒は之を購讀し、特に『六合雜誌』の如きは、教會内部のみならず、他の宗教界にも帝國大學あたりにも重要視された。後ち各派にそれ〴〵週刊或は月刊の機關新聞が出来るやうになつて、『基督教新聞』は純然たる組合教會の機關となつて了ひ、今日では『基督教世界』と稱して居る。『六合雜誌』も其後自由思想家の手に移り、遂にはユニテリアンの機關紙となつて仕了つた。

十四 一致組合兩教會合併問題

明治十七八年から同二十二年までの好況時代に於ける一大事件は、當時に於て勢力上特に群を抜いて居つた、一致教會(現今の日本基督教會)と組合教會との合併問題であつた。此の兩教會は當時に於て、信條に於ても政治に於ても尤も類似したもので、勢力に於ても殆んど同等であつた。合併の事は始め双方の先輩達の間の話が進められ、明治二十年には、一致教會の大會も組合教會の總會も、合併進捗の議を決し、双方から合同教會憲法起草委員を擧げて、爰に合同の基礎案が出來た。而かも二十一年の總會では合同を一年延期することとなり、二十二年の總會では、双方に行違が生じて無期延期となり、遂に今日に至るまで合併不能のまゝで來たのである。

さて一致教會の方にも合併反對者はあつたが、それは少數であり且つ勢力も頗る弱小であつた。而かし組合教會の方では、反對者は少數であつたけれども、新島襄氏デビス氏ギュリキ氏の如き有力者があり、同志社教會の多數も亦た反對であつた。而かも是等の反對者達も絶對の反對ではなく、教會政治を基礎案にあるよりもモット自由自治なものにしたいのであつた。前にも言つた通り、新教各派の分立する理由は、神學思想（即ち信條）の差違と、教會政治の差違とにある。然るに當時の兩教會に於て、神學思想の差違は餘りなかつたのであるから、合併の困難はツマリ教會政治の差違にあつたのである。組合教會が個々の教會に自治權を與へると、一致教會が大會とか中會とかの代議機關に多く權能を與へるとの差違、語を代へて言へば地方分權と中央集權との差違とも見える。事實今日に於てどれだけの差違があるか分らんけれども、恰も當時の政治界で自由黨と改進黨とが競争したやうに、教會政治の上で兩教會は論議したのである。或る人々は、同志社の關係上利害問題から反對したやうに、新島氏を非難するけれども、余輩の見る所では、之は新島氏の心事を曲解した見方と思ふ。氏は極端に自由自治を尊重して、殆んどその盲信家と思はれる程であつた。故に合同の可否は別として、氏は純然たる主義の上から反對したのである。而かし合同賛成者から見ると、一致教會側に於ても組合教會側に於ても、合同の失敗は千載の遺憾事にして、新島氏の行動に飽き足らず感ずるであらう。而かし假りに合同が出来たとしても、破綻は教會政治の方から來ないで、寧ろ神學思想の方から來たであらう。何となれば、神學上の自由思想は二三年を出でずして、我邦に殺到して來たからである。

十五 兩偉人の永眠

明治二十年三月二十七日に、浪華教會牧師澤山保羅氏が永眠した。氏は實に日本の基督教界を通じての信仰的聖者であつた。氏の感化は清く且つ深くある。明治二十三年一月二十三日に、同志社々長新島襄氏が永眠した。氏も亦た實に日本の基督教界を通じての信仰的偉人であつた。氏の感化は強く且つ大である。此の二人を有つたことは、組合教會の誇りであり且つ力である。兩人とも創業の人でありながら、寧ろその成功をかいまみて去つた方である。何となれば組合教會に於ける幾多の困難頓挫は、彼等の死後に續至したからである。

十六 保守的の反動起る

明治二十三年頃から、是迄の歐化主義の風潮に對する反動の風潮が頗る旺盛となつた。二十二年の紀元節に、當時平民主義進歩主義を標榜して天下を風靡した徳富蘇峯氏の『國民之友』に對抗して、三宅雪嶺氏志賀矧川氏等の率ゆる『日本人』が發刊された。兩氏などは極端な方ではなかつたけれども、中には隨分思ひ切つて保守的な排外的な分子もあつた。二十三年十月に教育勅語が下賜された。所が之を振りかざして基督教を迫害する、宗教家教育家言論家中々に多かつた。井上哲次郎氏は『宗教と教育の衝突』を著して基督教を攻撃し、所謂不敬事件なるものが各處に續起した。此の保守的の反動は益々旺盛となつて、三十二年頃までに及んだ。尤も二十七八年の日清戦争の時期は別として、之れが爲に基督教は何れも打撃を受けた。受洗者や求道者は段々少くなり、會て信者となつたものさへ、世間を憚つて退轉する有様であつた。而して尤も打撃を受けたのは基督教諸學校であつて、生徒の数が頗る減じた。而かも外國ミツシヨンの直接經營する學校は、財政困難の爲に廢校することはなかつたけれども、邦人信徒の經營する學

校、世間一般の同情に由つて維持する學校は、生徒の減少と財政の困難の爲に續々仆れたのである。特に組合教會縁故の學校には、それが多いので、非常に打撃を蒙つた。そしてその爲め廢校となつたのが、東華學校、北越學館、新鴻女學校、熊本英學校などであつた。同志社なども之れが爲めに非常に困難した。斯く組合教會が是等の學校を失つたことが、他日同教會が他の教派と比して不利益に陥つた一大原因である。

さて此處で一言して置くのは、當時基督教諸派の中で、尤も國民的自主を重んじ、外國崇拜の色彩の稀薄なのは、我が組合教會であつた。當時組合教會の本山の觀があつた同志社の氣風を言ふと、極端に自由自治を重んじた所は、新島襄氏の感化に由るけれども、風俗などは極めて蠻カラを尊び、巧に外國語を操つて西洋人と交るものなどを却て疎んずる風があつた。外國教師には氣の毒ながら、邦人教師も一般生徒も、外國教師の干涉（先方に何も惡意はないのであるが）に絶えず對抗したものである。従つて組合教會全體を通じて、外國宣教師と同等に或は以上に邦人の先輩を尊び、風俗習慣に於ては固より、思想信仰に於ても、外國宣教師に盲従する風はなかつた。今日でこそ諸教派の間に大した相違を認めないけれども、當時に於ては組合教會程外國崇拜の習氣を脱したものはなかつた、と言つても決して我田引水であるまい。

十七 新神學の勃興

保守的反動は外部の困難であつたが、新思想の勃興は内部の混亂を來した。明治二十一年に米國からユニテリアンの宣教師が始めて渡來したが、大した影響はなかつた。之より先き十九年に獨逸の普及福音教會の宣教師が渡來し、

爾來交代に數名の宣教師が渡來したが、布教の方では大した効績を擧げなかつたけれども、神學思想の方では盛に聖書の高等批評や合理的神學を鼓吹した。而してその影響を尤も著しく受けたものは、組合教會の教師達であつて、少なからずその信仰に動搖を來した。それに同志社や組合教會から米國に遊學したのも、殆んど凡てが彼地の新神學を輸入して來た。是迄の外國宣教師は牝鶏が雛雞の水に飛び込むのを見て心配し狼狽する有様であつた。而かし彼等が雛雞か家鴨の子かゞ問題である。組合教會の先輩諸氏は、始から外國教師の傳へて呉れた神學思想には不満足であつた。それが獨逸の高等批評や米國の新神學で爆發したのである。そこで外國宣教師と邦人宣教師との間に、又た邦人教師相互の間に、舊新神學の衝突が起つて、非常に教會の一致を害し、信徒の歸向を迷はせた譯である。而かも他の諸教派では、當時その方では枕を高ふして安眠して居る姿であつた。先輩の中で極端な神學思想を發表して、前後はあるけれども遂に教會から脱するに至つたのは、金森通倫氏横井雄氏で、自由思想を抱きながらも最後まで教會に踏み留つたは、海老名彈正氏である。尙ほ後進の人士で、思想も變り信仰も失つて、教職を退いたものも少くなかつた。

さて信仰に動搖の始まつた頃、明治二十五年四月の總會で左の信仰告白を決議した。けれども必しも個々の教會を拘束するものでなく、唯だ大體の方向を示すといふ迄で、言はず標準的信條である。

- 一、我儕は聖書に於て父、子、聖靈として示されたる無限純全なる獨一の神を信ず。
- 一、我儕は神にして人となり、世の罪人を救はん爲に苦痛を受け、死して甦り給ひし耶蘇基督を信ず。
- 一、我儕は新なる生命を與へ給ふ聖靈を信ず。

一、我儕は神の感化によりて成り、而して我儕に救を得せしめん爲に智慧を與ふる聖書を信ず。
 一、我儕は聖なる教會、水のバプテスマ、聖晚餐、聖き主の日、永遠の生命、死者の復活、及び正しき賞罰を信ず。
 爾來一度も之に手を觸れず、今日迄も此の儘である。而かも幾個の教會が此の標準信條を採用して居るか。大抵の教會はそれ／＼各自の信條を有つて居るであらう。信條でさへ拘束するものがない。自由と言へば自由であるが、不統一と言へば随分不統一である。参考の爲に明治三十七年に制定した、餘輩の牧する神戸多聞教會の信條を紹介して置く。

- 一、我儕は天地の主、人類の父なる獨一の神を信ず。
- 一、我儕は神の子イエス、キリストと其の福音を信ず。」
- 一、我儕は聖靈と其の感化を信ず。
- 一、我儕は永遠の生命と義しき賞罰を信ず。
- 一、我儕は聖書を以て我儕の救の爲に必要な啓示を有する唯一の經典なりと信ず。」
- 一、我儕は洗禮と聖晚餐を以て我儕の守るべき二大禮典なりと信ず。

十八 同志社事件

新島襄氏と外國後援者との間に十二分の理解があり、又た邦人教師なり一般生徒なりが、外國教師に十分の信頼を置いて居つた間は、事なく済んだが、さて新島氏は既に世を去つて小崎弘道氏その後を襲ぎ、初め新島氏と山本覺馬

氏と二人だけであつた社員が、増加して五六人となり十二三人となつた。時恰も神學上の新思想が、是等の社員、邦人教師、生徒間に流布するようになり、外人に對する思想の自由、管理の自主を主張するようになつたので、米國傳道會社當局も同志社の外國教師も、同志社の前途に危惧を抱いた結果、明治二十八年十月米國傳道會社から四名の代表者が日本に來朝して、同志社及び組合教會の現狀を視察し、且つ双方の當局と折衝する所あつた。特に是等の代表者は同志社の憲法中に「基督教を以て德育の基本となす」とあるに加へて、同志社の信條として、人格神の存在、基督の神性、靈魂の不滅の三個條を明示せんことを要求した。それにも無理のない所があつた。何となれば、當時有力な教授中に、極端にも人格神の存在さへも否定するようものがあつたからだ。けれども、當時の社員等は、個人としては前述の三個條を信ずるにしても、學校としては他の要求に應じて斯かる信條を制定することを拒絶した。そこで翌年に至り、同志社からは米國傳道會社からの年々の補助金を辭し、外國教師も一同辭表を出して同志社を去ることになつた。これが同志社と米國傳道會社との提携破裂の顛末である。尤も邦人教師間にも、外人と事を構へて、その補助金と教師派遣とを犠牲にすることに、反對なものもあつた。此の提携破裂の爲に、儘に同志社は大損失を招いた。けれども、同志社は同志社のもので、米國傳道會社のものでないことが、之に由つて中外に明かになつた。

尙ほその後の事を序ながら言ふて置くが、提携斷絶後も更に同志社に内訌があつて、小崎弘道氏が社長を辭して、横井時雄氏が之に代るや、文部省側の特権を獲る爲に、憲法中「基督教を以て德育の基本となす」の一項を、中學部だけには適用しないことにした。これは好んでしたのでない、自存の爲め止むを得ずやつたのだ。けれども、之に對しては、同志社の根本主義を覆へすものとして、猛烈な反對が内外に起つた。時に提携斷絶後暫し沈黙して居つた米

國傳道會社は背任罪を以て同志社を法廷に訴へ、同志社の財産中から傳道會社寄附の分を返却せしめようとした。同志社の當局は法廷で争ふことを苦しく思ひ、遂に總辭職をなすに決し、後繼社員として傳道會社の信頼するような人々のみを推舉した。そこで訴訟は取り下げとなつた許りでなく、同志社と傳道會社と再び提携することゝなつた。けれども傳道會社は教師を送つて呉れるだけで、以前のように年々の補助金を支給することをしない。又た三個條の信條を制定することなども問題とはならなかつた。再び提携するようになって、同志社は純然たる獨立の教育機關で、組合教會のものでもなければ、米國傳道會社のものでもない。

十九 日本傳道會社の獨立

同志社に於けると相似のことが、日本傳道會社に於ても起つた。此の會社も年々米國傳道會社から補助金を受けて居つた。實際を言へば、會社の總經費の六分或は七分まではその補助金で支辨した。従つて外國宣教師は多大の發言權を有つて居り、會社の年會で、宣教師は番外席にあつて政府委員の姿であつた。所が教育上に於て、内外人が兎角意見が衝突するように、傳道上に於ても、内外人の意見が中々に一致しない。然るに米國傳道會社が補助金を寄附するのに、指定寄附金と稱して、チャンとその使途を指定して提供するから、會社當局の自由にならない。そこで同志社問題と並行して、之れが組合教會の問題となり、明治二十七年の總會で改革調査委員が擧げられ、二十八年の總會で滿場一致で左の議案が決められた。

一、日本基督教傳道會社はアメリカンボールド從來の指定寄附金を謝絶する事

但し特志寄附者（無指定寄附者の意）は内外人及び何會社を問はず申受くる事

一、アメリカンボールドの從來の盡力に對して厚く謝意を表する爲め在留宣教師及びアメリカンボールドに向つて書を呈する事

一、アメリカンボールドの指定寄附金を謝絶したる上は我儕教役者たるものは勿論信徒に於ても充分の克己義捐をなして從來の事業を萎縮せしめざる様力むる事

そして此の決議を翌二十九年から實行した。而かも邦人信徒の寄附金額は俄に二倍三倍して、以前の事業を縮小せず済んだのである。

當時他の教派に於ては、學校に於ても傳道經營に於ても、斯んな自主獨立の氣運は見られなかつた。外國の補助金を一切辭退して、石に嚙り付いて、教育に傳道に背水の陣を張らうといふが、組合教會當時の意氣込であつた。

二十 南都の宣言書

當時の組合教會は可なりに混亂の姿であつた。保守的反動の世間の風潮を前に控へながら、内人と外人と衝突し、先輩と後輩と相争ひ、特に新舊神學思想が到る所に渦を捲いた。中には組合教會が四分五裂しないかと心配したものもあつた。此の時に際して明治二十八年十月を期して、奈良に始めて組合教會教役者會を開催した。最初の程は相互に打解けず、甲論乙駁の有様であつたが、二十四日の早朝一同若草山の山頭に上り、相共に神の靈化を祈つた處、期せずして一同の胸中に融和と覺悟と感涙とが湧いて來た。そして同夜左の宣言書を發表して、數十名の來會者が之に

署名した。

奈良大會宣言書

我儕耶穌基督を教主と尊信し、神の召を蒙れる者、大に時勢に慨する所あり、是に南都に會して、天父に祈願し、聖靈の恩化に浴し、遂に左の綱領に従ひて福音を宣傳し、神の國を建設せんことを期す。

- 一、罪惡を悔改し基督によりて天父に歸順すべき事
- 一、人は皆神の子なれば互に愛隣の大義を全ふすべき事
- 一、一夫一婦の倫を保ちて、家庭を潔め、父子兄弟の道を盡すべき事
- 一、國家を振興し、人類の幸福を増進すべき事
- 一、永生の望は信と義とによりて完ふせらるゝ事

その趣に於て、花岡山の奉教趣意書に似る所があり、神學思想に於て散漫な所があるけれども、翻譯臭味がなくて當時の人達に共通した氣分を善く發揮して居る。此の南都の集會に由つて、教師達は先輩も後輩も兎も角一致結束したそして此の宣言書の趣意に従つて社會に押し出すことゝなつた。

二十一 保守的行動の緩和

明治二十七八年の日清戦役は、世界文明を採用した日本と、保守頑冥な清國との戦争であつたので、極端な保守的行動は著しく緩和された。基督教諸派を代表した軍隊慰問使も、數回戦地に出張して士氣を鼓舞作興した。我が組合教會の宮川經輝氏の如きもその一人であつた。尙ほ三十二年に實施された内地雜居は、永年保守主義の人達には蛇蝎のやうに恐怖されて居つたのが、イザ實施となれば別段のこともなく、却て内外人の理解親和を増進する助となつた。又た時の政府は、内地雜居の實施と共に、外國宣教師を一面には保護し一面には取締る爲に、教會の設立や斯教の宣布に關する内務省令を發布した。當時山縣内閣が提出した宗教法案が議會で否決されたことは、世間周知の事實である。此の省令は外國宣教師を目的としたのであり、又た基督教會は悉く外國人の管轄の下にあるものと思つたのであらうけれども、兎に角基督教會に關する法令であるから、外國人に關係ない教會なり牧師でも、届出とか願出とかの面倒を見ると同時に、是迄度外視されて居たものが新に官廳の取扱を受けることになつた。尙ほ日露戦争頃になると、明治二十五年頃の極端な保守的行動は、全く消滅したのである。

二十二 三先輩の活動時期

新島澤山の兩偉人は既に逝き、横井時雄金森通倫安部磯雄等の諸氏も、種々の事情から圈外に逸出したので（當時先輩後進で傳道界を離れたものが可なりあつた）明治三十年頃以來大正十年頃までの二十五年間は、特に小崎弘道海

老名彈正宮川經輝の三氏が先輩としての活躍時代であつた。宮川氏は明治十六年から、大阪教會の牧師として關西に雄飛し、小崎氏は三十年同志社々長を辭職後、再び東京に出で、靈南坂教會の牧師として、組合教會派のみならず、諸派を通じての元老となり、海老名氏も同年に東京に上り、本郷教會の講堂で獅子吼し、滿都の學生青年を動した。其後宮川氏は病の爲に引退したけれども、小崎氏は依然東京に居つて、海老名氏は同志社の總長として、七十歳を超えた老軀を提げながら尙ほ活躍中したのである。

尙ほ此の時代に於て活動した人士は、原田助、綱島佳吉、三宅荒毅、杉田潮、長田時行、古木虎三郎等の諸氏であるが、或るものは既に物故し、或るものは病の爲に引退し、獨り原田氏のみが布哇州立大學の講師である。

一二三 諸教會の設立

是迄に既に掲げた教會の外に、明治二十年代に設立された重なる教會は、鳥取、津山、洛陽、大津、會津若松、丹後、北丹、廣島、愛知、活田(神戸)、平城、丹陽、横濱、延岡、札幌、尼崎、都城、飯肥等であり、三十年代に設立されたのが、愛隣(京都)、浦河、細島、旭川、岩見澤、湧谷、佐沼、九條(大阪)、高砂、本郷、八幡(江州)、足利、小樽、長崎、京橋、京城、久世、高屋、函館、倉敷等であり、四十年代に設立されたのが、十勝、平壤、今出川、天鹽梅田(大阪)、須磨、久留米、早稻田、高松、島根、臺北等であつた。大正年代へ入つて以後のものは、略することにする。

兎に角明治四十五年末の統計に由ると、獨立教會の数が七十四、假教會が十九、講義所が十、牧師及男女傳道師の

数が合計九十、教會員の数が(小兒を除く、某々教派では受洗小兒を含める)一萬六千六百三十である。

一二四 日露戰爭時代の活氣

明治三十七八年の日露戰爭時代は、國民的精神及活動の最高潮に達した時代であるから、我が教會も之れが爲に大に活氣づいた。三十七年十月京都で開かれた組合教會總會は、信徒大會で左の宣言書を發表した。

今や我國は前古未曾有の時機に際し、國運の發展に伴ひ我民族の使命愈々重大なるを致すと共に、靈性の渴仰亦た甚だ切なるものあらんとす。蓋し健全なる宗教を傳ふる事の急なる、未だ曾て今日の如きはあらざる也。吾人基督の道を奉ずる者、豈決然起つて時代の要求に應ずる所なかるべけんや。即ち内は教會を覺醒し、各自の靈性を發揮し、外は福音を宣傳し、以て個人を救ひ、家庭を清め、國民の元氣を振興し、我帝國をして人道の大義に則り其の天職を盡さしめざるべからず。而して吾人は更に國家の進運に鑑み、各教會の獨立自給を完成し、進んで東洋傳道の志望を貫徹せんことを期す。

茲に日本組合教會信徒大會に於て、滿場一致を以て此の宣言を決議し、敢て吾人の意志を表す。

此の宣言書の中に、具體的問題が三つ現はれて居る。一は外部に向つての福音の宣傳であり、一は内部に於ける教會の獨立自給であり、モー一は朝鮮支那の傳道である。さて此の第一は、此頃から始まり六七年に亘つて繼續した特別傳道となつて實現した。之より先き數年前に、第二十世紀の第一を期して『新世紀運動』と稱する大舉傳道を舉行したことがある。これは東京を中心としての諸派聯合の運動であつた。其後全國を通じて盛に『協同傳道』を試

みたこともある。これも諸派聯合の運動であつた。而かし此回の特別傳道なるものは、組合教會だけの運動で、可なり周到に計畫し、經費も随分にかけて、そして人物も多く動員した傳道であつた。重に大都市で舉行され、次で小都市にも及んだ。世間も段々に進歩して、基督教を外教と見、邦人教師を外國宣教師の手先位に見る僻見も漸くに消え、極めて偏狭頑冥な國家主義保守主義も、日露戦争の爲に却て衰へた時であるから、此の特別傳道は到る所に成功し、受洗者求道者の數が頗る増加した。要するに、緊張した高潮した民心に觸れたのである。此の傳道は集中傳道となり擴張傳道となり更に前進傳道となり、いろ／＼と名稱を變へながら十年間も繼續した。

尙ほ明治三十八年には、婦人有志が發起して婦人傳道會を組織した。これは組合教會の婦人達が資金を集めて、小規模ながら、婦人の巡回傳道師を各地に派遣したり、或は婦人傳道師を必要の地に駐在せしめる爲である。渡邊常子女史が最初から年々會長の位地に推選された。

二十五 教會の獨立自給

宣言書に現はるゝ第二の問題、即ち教會の獨立自給は、重要で而かも困難の問題であつた。組合諸教會の中、獨立自給のもの固より多い。又た明治二十九年からは、日本傳道會社はアメリカンポールドの指定寄附金を謝絶して、外國宣教師の容喙干渉を拒んだから、之を純然邦人經營の事業となつた。所が當時獨立教會が四十一、假教會が五十五その中八個は傳道會社の直屬で、残り四十七個はミツシヨンの補助を受けて居つた。此の四十七の教會を自給さすか、又は傳道會社の直屬とせなければ、日本組合教會は本當の獨立教會とは言へない。然るに明治三十八年の總會で

は、左の決議をした。

一、報告書の件 アメリカンポールド宣教師が公にすべき組合教會に關する報告は、豫め常議員會の協賛を経べき事。

一、補助教會の件 目下アメリカンポールド補助の下にある諸教會を、悉く組合教會に引渡すべく、宣教師より提議ありしにつき、組合教會は委員を選んで其期限方法に就き交渉せしむる事。

第一の決議は、是迄宣教師の事業報告中に、組合教會全部の統計を含め、恰も之を宣教師自家の功績のやうに見ずることに抗議したのであつた。尤も斯ういふ風の報告をするのは、必ずしも宣教師の私心から出たものでもあるまい、支那印度その他在留の宣教師も皆なさうして居るのである。けれども、我邦では事情が頗る遠ふ、且つ大義名分に合はない。故に之に對して斯く抗議をしたのである。

第二の決議は、宣教師側から引渡しを申込んだやうであるけれども、實は組合教會側から之を促したのである。そこで双方交渉の結果、明治三十九年一月から、ミツシヨン補助の教會全部を組合教會で引受けることになり、尙ほ尙後三個年を期して全部を獨立自給せしめる目的で、アメリカンポールドからは八千七百圓を寄附し、組合教會では特別寄附九千六百圓を募集することにした。そこで四十七個の假教會は、ミツシヨンの手を離れて、純然組合教會のものとなり、超えて明治四十二年からは、その大多數は獨立自給を宣言したのである。

然かしその後の経過をいふと、固と多少無理な自給であつたから、數年後には萎靡振はず、牧師を招聘する資力もなく、名義は獨立教會でありながら、その實は獨立の出來ない、半死半生の教會となつたのも少くない。それからミ

ツシヨンは更に新に傳道地を開拓して傳道に従事した。その結果獨立自給が出来るやうな教會が成立すれば、組合教會に加盟させ、それ迄に發達しない教會はミツシヨン所屬の教會と呼ばれ、法律上では純然たる組合教會と區別されるやうになつた。

二十六 朝鮮人傳道

宣言書に現はるゝ第三の問題、即ち東洋人に對する傳道は、歐米人の手に委すべきでなく、日本人が當然その責に任すべきであるといふ事は、明治四十年の總會に於ける、朝鮮人傳道の決議となつて具體化され、明治四十五年から愈々それが實行を見るに至つた。そしてその宣教の主任者として推選されたのが渡瀬常吉氏であつた。日本の諸教會から朝鮮に傳道して居るもの當時二三あつた。けれども、それは朝鮮在留の日本人に傳道するのであつた。組合教會でも以前から京城に傳道者を送り、既に京城教會の成立を見たのである。そして朝鮮人を目的に傳道して居るのは、皆な歐米の宣教師であつた。そこへ組合教會が始めて朝鮮人の傳道を開始したのである。

其後の經過を序にいふと、始めの程は此の朝鮮人傳道は非常に好成績であつた。何と言つても、日本人の方が歐米人よりも彼等に觸れ易い親しみ易い了解され易い。けれども、日韓併合の後は事情が全く違つて來た。印度に於て英國の宣教師が傳道に困難を感ずると同じ工合に、併合後の朝鮮に於ては日本の傳道者は傳道に困難を感ずる。萬歲運動のあるやうな時、表面日本人に服従しながらも裏面で鬱憤を抱いて居るやうな處で、日本人が傳道を試みるのは困難至極である。そこで大正十年に至つて、組合教會がアメリカンボールドに對して獨立自給したと同じ筆法で、双方

協議の結果、朝鮮人組合教會は日本の組合教會に對する獨立自給を宣言し、名稱も改めて朝鮮會衆教會とした。故に組合教會の朝鮮人傳道は、滿十個年を以て終を告げた譯である。

二十七 組織變更

是迄組合教會の本部（本部とは言はない、唯だ事務所と言つた）と日本傳道會社とは別物であつた。前者は組合教會全體を統一する事務機關であり、後者は傳道を經營する事業機關であつた。一方に會長があれば他方に社長があり、一方に總會があれば他方に年會があり、一方に常議員若くは理事があれば他方には評議員のあつたこともある。二者別物のやうであつて而かも同一物であつた。そこで大正元年の總會では組織を變更して、日本傳道會社を廢して組合教會本部中の傳道部とした。尙ほその外に總務部、教育部、出版部の三部を設けることにした。そして本部の役員としては、會長一名、理事十名、幹事二名を擧げた。要するに、組織を一層合理的にしたに過ぎないのである。其後幾回か規約に修正を加へ、本部を六部に分つて總務部傳道部教育部社會部朝鮮傳道部財務部とし、役員に會長副會長各一名、理事十二名を擧げ、理事中の六名をして各部の部長たらしめたこともある。兎に角此頃から組織の整理時代に入つて、規約、規則、規程などが、段々に或は修正せられ、或は増補せられ、或は新に制定せられ、昔日と比べると數層綿密な周到な合理的な組織となつた。

二十八 世界大戰後の宣言書

大正三年から七年までの世界大戦亂が、如何に世界全體に大變革を持ち來たしたか、如何に我邦の上下に大衝動を與へたか、従つて如何に我が組合教會に新方向を與へたかは、申す迄もないことである。今大正八年一月に組合教會が発表した宣言書を爰に紹介する。

新時局傳道宣言書

既往五年間に涉れる大戦役も茲に終結を告げ、世界の機運將に一轉せんとするに當り、我國民は此大勢に呼應共鳴し正義を以て國家經營の大是を定め、友愛を以て國民交誼の方針となし、世界同胞と融和輯睦し、進んで東洋振興の使命を成就せざるべからず。而かも之を實現するには、我同胞をして舊來の陋習を打破し、根本的に悔改し、新生復活以て神の子たるの自覺を得しむるにあらずんば、不可能なるを信ず。之れが爲に吾人は謹んで天父の祝福を祈り、献身犠牲の實を擧げ、左の綱領に従つて福音を宣傳し、神の國を地上に實現せんことを期す。

綱 領

- 一、吾人は永遠に亘れる神の正義と仁愛とを信じ、その聖旨の地上に成就せんことを期す。
- 一、吾人は基督の十字架を人類奉仕の理想となし、國家及國際間にその精神を擴充せんことを期す。
- 一、吾人は人間の價値を高調し、男女の平等と貞操とを確立せんことを期す。
- 一、吾人は人類同胞の大義を明かにし、階級的差別の弊風を改め、人種的僻見を打破せんことを期す。
- 一、吾人は基督の體現たる教會の根底を堅ふし、人類救済の使命を完ふせんことを期す。

是迄の宣言書に比して、更に提唱され高調されたのは、世界の氣勢と呼應共鳴すること、國際的の正義と平和とを重

んずること、男女、階級、人種の平等を確立すること、而かもその方法としては、信者各自が悔改、新生、復活、犠牲、献身、基督の十字架を人類奉仕の理想とし、そして福音を宣傳し、教會を堅固にするといふのである。

二十九 外國宣教師との協同

大正十年、朝鮮人組合教會が獨立自給を宣言し、組合教會が朝鮮傳道部の廢止を決議した總會は、同時に組合教會とアメリカンワールド日本ミツションとの傳道上の協力を決議した。一寸見ると、明治二十九年の昔へ逆轉したやうにも見える。二十九年には、日本傳道會社はアメリカンワールドの指定寄附金を謝絶して、日本人の傳道は日本人が當るといふ主義で、宣教師の容喙干渉を拒んだ。三十九年には、アメリカンワールドが補助金を出して居る約四十個の教會を組合教會に引受けて、外國に對する獨立自治の實を擧げることにした。所が前にも言つた如く、宣教師達は引續いて傳道に従事し、獨立自給の出來る教會が成立すれば、組合教會へ加盟させ、それ迄に發展しない教會に、ミツション所屬の教會として補助して居つた。精神的には皆な同じ組合教會で、相互に姉妹教會の關係であつたけれども、法律的には、組合教會とミツション教會とは全く別物であつた、所が大正十年になつて宣教師側から全然自發的に是等のミツション所屬の教會を組合教會に譲り渡すこと、是迄日本ミツションが傳道の爲め年々費やしつゝあつた金額を無條件で組合教會に提供すること、是迄別働隊として働いて居つた宣教師達は、今後組合教會理事會の指揮の下に働くことを提言した。組合教會側は、此の謙遜な棄己的な厚意的提言を諒として、それを受容することにした。そして同時に、日本ミツションを代表する三名の宣教師を組合教會理事會に列席せしむる(但し投票權はない)特權を

與へて、自由に發言討論せしむることにした。故に傳道の範圍に於ては、日本ミツションはその人物と金錢とを持參して、組合教會の懐の裡へ投じた姿である。之を兩者の傳道上の協力と稱するのである。けれども、外觀から見れば折角外國に對して獨立自給した組合教會が、再び外國の人物と資金との御厄介になるので、恰も逆轉のやうに見え、或る教派の人々は、組合教會が自分等の立場に近づいて來たやうにいふが、精神的から見れば、又た從來の成行から見れば、此の協力は一大進歩であり、本當の意味での内外協力である。

尙ほアメリカンボーールドは、傳道事業ばかりでなく、教育事業に於ても社會事業に於ても、組合教會と協力して經營したい意向を有してゐる。

三十 組合教會の現況

政治的のことをいふと、地方的に聯合した數個の教會を部會といふのである。たとへば、京都部會、兵庫部會、九州部會、北海道部會の如きである。これは相互の親睦を厚ふし、地方的施設をなす機關である。全国的に聯合した組合教會から選出した代員で組織する議會を總會といつて、毎年一度開催され、組合教會全體に關する一切の事柄を協議決議する重要機關である。理事會は總會の決議に従つて萬事を處決執行する機關である。十五名の理事から成り、總會が之を選挙する。理事の互選による理事長があつて、近年は會長を置かない。本部を總務部傳道部教育部社會部財務部の五つに分け、各部の主任理事と理事長とで常務理事會を組織するのである。教職のことをいふと、按手禮を受領した教師と、此の禮を受領しない傳道師との二種あるがけである。

昨年の統計を挙げると、部會の教十一、教會の數百六十四、傳道地の數百〇四、會員の數二萬六千四百八十三（小兒を含まず）日曜學校の數二百四十五、現任教師の數八十六、現任男女傳道師の數四十六。
尙ほ機關新聞としては、週刊「基督教世界」がある。

三十一 結 尾

日本組合教會は何であるかを紹介するのに、その歴史を語るのが一番良い方法と思つて、四回に亘つてその歴史を御話した。そしてその間に組合教會の特色のある所を指示した積である。決して歴史の爲に歴史を語つたのでない。今や此の叙述を終るに際して、更に我が教會の特色を一瞥したい。

歐米の基督教國で、教派の分れる原因は重に二つである。一は信條教理の差で、一は教會政治の差である。今此の二點から我が組合教會を見ると、孰れの方に於ても自由が特色である。

一、信條 組合教會全體を統一する信條なるものはない。信條は個々の教會が各自に制定するものである。然かしの教會の信條も大同小異であり、且つ他の教派の信條に比すると、概して簡單であり自由である。教理に由りて他を排斥し、信條を以て他を束縛しないのが、そして神學の新舊を問はず思想の保守自由に拘らず之を包容するが、組合教會の特色である。英米のコングリゲーション派も同様である。その左翼は唯理派や倫理運動と握手するやうに見えるけれども、唯だ理性のみに重を置かず、情意の要求を重んじ、熱心敬虔な宗教感情を重んじ、健全高潔な倫理生活を重んじ、個人及び社會を救済する實力を重んずる點に於て、彼等と趣を異にするのである。語を代へて言へば

信條なり神學なりの背景に深い強い鍛錬された宗教経験を必要とするのである。又た此の宗教経験の中心として耶蘇基督を尊崇渴仰するのである。

二、政治 組合教會の教會政治の根本義は、個々教會の自由自治である。各教會が自由にその規約を制定して自身を支配して行くのである。尤もその規約は概して大同小異である。又た各教會に於て會員はその投票權に於て皆な平等である。そして斯かる自由自治の諸教會が申合せて聯盟を結んだのが、日本組合基督教會である。此の聯盟にも亦た規約があるから、之に加盟した以上は、固よりその規約を守らねばならぬ。個々の教會としては自由自治、聯盟としては協同一致。創立以來數十年有力な先輩の指導と、各教會信徒の公共心とによつて、歩調を描へ、勢力を合せて、活潑な傳道も出來、その資金の自給も成功したのであるが、今や更に百尺竿頭一步を進むべき時が來たのである。

我が組合教會の創業時代に於ては、諸先輩各一條の槍を提げて新地を開拓し、その結果一國一城の主となり、後輩も亦各その力量に任せて自家の境土を經營して來たので、他教派の郡縣制度的なるに比して、我が教派は封建制度的である。此處に長所もあり短所もある。そこで昨今は相互扶助、協同一致の精神が大に勃興して來た。中央基金の規程が制定されたのは、その精神の一發露である。此の基金に由つて、教師養成費、教師養老費、遺族扶助費に充てるのみならず、微弱な教會の教師報酬に貢献したいのである。

要するに、我が教會は自由自治を特色とするが故に、信仰の上に於ては、成るべく他人の厄介にならぬやうに心懸け、經濟の上には、各教會の會員皆な應分の金錢を獻じて、自給獨立の面目を全ふせねばならぬ。尙ほ協同一致の精神を發揮する爲には、眼を全體に注ぎ、全體の運動の爲めに奮つて資金を喜捨せねばならぬ。(完)

昭和九年十月十三日 印刷
昭和九年十月十五日 發行
日本宗教叢書
第十回配本

不許複製

東京市神田區一ツ橋通町二

編輯人

株式會社 東方書院

代表者 三井品史

東京市小石川區久堅町一〇八

印刷所

共同印刷株式會社

代表者 若島 啓

發行所 株式會社 東方書院

電話九段三八四二
東京市神田區六八六一二

終

